LIBRA SQUARE

Book 最近，おもしろかった本

『財務３表一体理解法』

國貞克則 著　朝日新書　756円（税込）

簿記が分からなくても決算書を読み解くことができる？

「会計は美しい」と著者は言う。

会計では，１＋１は必ず２になるように，ロジックがきれいに通っているというのがその理由だ。

著者が言うそのロジックとは，損益計算書（PL），貸借対照表（BS），キャッシュフロー計算書（CS）の数字にはつながりがあるということだ。そのつながりを理解するために著者が独自に考案した方法が，本書のタイトルにもなっている「財務３表一体理解法」である。

例えば事務用品を現金で５万円購入した場合，PLでは費用として計上されるから利益が５万円減る。そして，その減った利益がBSの右側の「純資産の部」とつながっているためBSの右側が５万円減り，BSの左側の「現金及び預金」も５万円減って，その結果としてBSの左右が一致する。すると，現金の動きを表すCSにも５万円の支出が反映されるから，CSにはマイナス５万円と計上されることになる。

著者によれば，このような「つながり」を一つ一つの取引ごとに理解していく作業を積み重ねれば，会計の仕組みが理解できるようになるということだ。本書は，他にも商品を買掛で仕入れた場合，役員報酬を支払った場合，借入金を返済した場合など，取引ごとに財務３表がどのようにつながっているかを丁寧に解説している。また，本書は，企業が赤字を隠して黒字を装う手口等についても具体例を挙げて解説し，PL・BSの「ウソ」も見破れるようになると述べている。

果たして著者が言うように，財務３表一体理解法を習得すれば，本当に簿記が分からなくても決算書を読み解くことができるようになるのかは疑問が残る。しかし，本書を読めば，少なくとも，「こんなに利益を出している会社が，なぜ税金を払う金すらないと，あちこちから借金をしているのだろう」と疑問に思ってしまうことが，いかに会計を知らないかが分かるのは確かだ。

（会員　角田 香苗）

Cinema 心に残る映画

『マイライフ・アズ・ア・ドッグ』

1985年／スウェーデン／ラッセ・ハルストレム監督作品

見失いかけた自分と世界との結びつきを再確認し，成長していく少年の姿

今までに観た全ての映画の中からたった1本の「心に残る映画」を選ぶことは，とても難しいことだ。それでも，結局，自分がこの映画を選んだことに自分でも妙に納得してしまった。

主人公のイングマル少年をはじめとする愛すべき登場人物たち，スウェーデンの人々の素朴ながら美しい暮らしぶり，微笑ましくも切ないストーリー。初めて観たときには，自分がまるで子どもに戻ったかのような気分になり，作品の中でイングマルたちと一緒に時間を過ごしたかのような錯覚に陥った。夜遅くまで子どもだけで留守番をさせられたときのこと，家の都合で飼っていた犬を処分されてしまったときのことなど，自分の中でフタをしていた幼い頃の印象・記憶が次々と甦った。

1950年代後半のスウェーデン，イングマルは，ママと兄と愛犬シッカンと暮らしている。イングマルは，悲しくてどうしようもなくなったとき，いつも，スプートニクに乗せられて宇宙に打ち上げられ，最後は餓死させられてしまったライカ犬の不幸と孤独とを思いやり，それに比べれば自分はまだましと考えてみる。ママへの愛情を全身で表現するイングマルに対し，病気がちなこともあってか，イングマルと接するママの態度はどこか拒絶的だ。やがてママの病気は悪くなり，イングマルは一人，田舎に住む叔父夫婦の元に預けられることになる。きちんと病院に預けるからと説得をされ，やむなく愛犬シッカンとは別れるが，実は…。

自分が愛するもの，信頼するものを失ったとき，自分が愛するもの，信頼するものから見放されたとき，人は，自分と自分を取り巻くこの世界との接点・絆を見失いそうになる。だが，そうしたとき，見失いかけた世界との接点・絆を再び取り結ぶのも，人の愛情であり，信頼しかない。イングマルも，気さくな叔父さんや風変わりな村人たち，新しい友だちやガールフレンドらとの関係の中で，自分と世界との結びつきを再確認し，成長していく。

本作を気に入っていただけた方には，同じ監督が，アストリッド・リンドグレーン原作の児童文学を映画化した「やかまし村の子どもたち」，「やかまし村の春・夏・秋・冬」も是非ともご覧いただきたい。

どの映画も，とにかく子どもたちの表情が素晴らしく，いつまでも忘れられない。

（会員　飯田 丘）